

文部科学省認可通信教育



学習のポイント

2018 (平成30年度)

九州保健福祉大学大学院

社会福祉学研究科

修士課程

平成30年度レポート提出締切日

社会福祉学研究科 修士課程

- 第1回 平成30年 6月29日 (金)
- 第2回 平成30年 9月28日 (金)
- 第3回 平成30年 11月30日 (金)

保健科学研究科 博士(前期)課程

- 第1回 平成30年 6月29日 (金)
- 第2回 平成30年 9月28日 (金)
- 第3回 平成30年 11月30日 (金)

連合社会福祉学研究科 博士(後期)課程

- 第1回 平成30年 6月29日 (金)
- 第2回 平成30年 9月28日 (金)
- 第3回 平成30年 11月30日 (金)

保健科学研究科 博士(後期)課程

- 第1回 平成30年 6月29日 (金)
- 第2回 平成30年 7月31日 (火)
- 第3回 平成30年 9月28日 (金)
- 第4回 平成30年 10月31日 (水)
- 第5回 平成30年 11月30日 (金)

レポート課題提出について

<お知らせ>

レポート提出締切日は、「完成されたレポート」の提出日です。

レポート内容に不安がある方は、科目担当教員より、少なくとも2週間前には、添削指導を受けてください。

<注意事項>

レポート提出は、締切日の17:00までに必ず提出してください。

レポート提出は、科目担当教員及び通信教育事務課の2箇所に提出してください。

※通信教育事務課レポート専用メールアドレス：kuhw-c-report@office.jei.ac.jp

※科目担当教員メールアドレス：(別紙参照)

社会福祉学研究科 修士課程 2014年度 カリキュラム

(社会福祉学研究科 修士課程 2014年度入学生～2018年度入学生用)

	授業科目名	分野名	担当教員名	開講年次	単位	授業形態	必・選	目次	
授業科目の概要	必修科目	社会福祉学特論		栗栖 照雄	1	4	T	◎	1
	専門選択科目	社会福祉学特論Ⅰ	行動療法論	前田 直樹	1・2	4	T	○	2
			人間動物関係論	加藤 謙介					3
		社会福祉学特論Ⅱ	障害社会論	上農 正剛	1・2	4	T	○	4
		社会福祉学特論Ⅲ	研究法・調査法	三宅 邦建	1・2	4	T	○	5
		社会福祉学特論Ⅳ	高齢者福祉論	山崎きよ子	1・2	4	T	○	6
		社会福祉学特論Ⅴ	東洋介護福祉論	渡邊 一平	1・2	4	T	○	7
		社会福祉学特論Ⅵ	地域福祉論	平川 忠敏	1・2	4	T	○	8
		社会福祉学特論Ⅶ	身体健康福祉論	小川 芳徳	1・2	4	T	○	9
		社会福祉学特論Ⅷ	施設経営論	鬼崎 信好	1・2	4	T	○	10
									11
		社会福祉学特論Ⅸ	国際保健福祉論	秋葉 敏夫	1・2	4	T	○	11
			生活支援技術論	清水 径子					12
	社会福祉学特論Ⅹ	スクールソーシャルワーク論	横山 裕	1・2	4	T	○	13	
	社会福祉学特論Ⅺ	コミュニティ・ソーシャルワーク論	川崎 順子	1・2	4	T	○	14	
	総合科目	特別研究		秋葉 敏夫	1～2	6	T S	◎	15
		特別研究		上農 正剛	1～2	6	T S	◎	16
		特別研究		小川 芳徳	1～2	6	T S	◎	17
		特別研究		加藤 謙介	1～2	6	T S	◎	18
		特別研究		川崎 順子	1～2	6	T S	◎	19
		特別研究		栗栖 照雄	1～2	6	T S	◎	20
		特別研究		正野 知基	1～2	6	T S	◎	21
		特別研究		前田 直樹	1～2	6	T S	◎	22
		特別研究		山崎きよ子	1～2	6	T S	◎	23
特別研究		渡邊 一平	1～2	6	T S	◎	24		

【修了要件】

必修2科目10単位、専門選択5科目20単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

【授業形態】

T = 印刷授業科目

T S = 印刷授業と面接授業の複合科目

◎ = 必修授業科目

○ = 選択授業科目

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論	栗栖 照雄	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

(講義概要)

- 1) 福祉活動の歴史と主要な思想・理論・概念を学習する。
- 2) 福祉と哲学を関連づける思想として、QOL、ノーマライゼーションなどの理論を学習する。
- 3) 福祉(ケースワーク)思想の基礎となる哲学的人間観をケア(care)の意味と様態から考察する。

(授業の目標)

【課題1】古代から現代に至る世界の福祉活動の歴史をたどり、そのつどの活動を動機づけた主要な思想・理論・概念を探究する。

【課題2】現代の代表的な福祉思想としてQOL、ノーマライゼーションなどの理論を取り上げ、その哲学的基礎を考察する。

【課題3】ケア(care)の意味と構造を理解し、福祉思想の基礎をなす人間観の全体をケアの意味と様態に従って構造化する。

到達目標 (SBOs)

【課題1の目標】福祉活動を動機づけた思想・理論・概念を修得し、それらを呼称する用語の意味領域を説明できる。

【課題2の目標】QOL、ノーマライゼーションなどの理論を考察し、その理論の中にある人間存在理解の哲学的基礎を説明できる。

【課題3の目標】現代英語のcareの意味領域と人間存在および人間関係の様態を重ね合わせて考察し、ケアの意味と構造に従って人間存在の全体を分析し構造化する。それによって、福祉活動(福祉の人間関係)が人間存在の本質構造から必然的に由来することを説明できる。

授業計画(レポートの課題)

第1回レポート課題

テキスト「社会福祉思想史入門」を参考にして、西欧の福祉活動と指導概念を理解し、その全体を歴史的文脈の中に位置づける。

第2回レポート課題

テキスト「介護福祉教育の方法と実践」を参考にして、福祉の基本概念と援助関係形成の方法論の特徴を理解するとともに、理論の中にある基礎的な人間理解に関して考察する。

第3回レポート課題

テキスト「ケアの本質」を参考にして、人間存在におけるケアの意義を学習するとともに、ケアする存在としての人間における福祉の必然性を理解する。

テキスト

- ①「社会福祉思想史入門」吉田久一他著、勁草書房
- ②「介護福祉教育の方法と実践」栗栖照雄編著他、角川書店
- ③「ケアの本質」ミルトン・メイヤロフ、田村 真訳、ゆみる書房

参考書・参考資料等

- ①「社会福祉の動向と課題」西尾祐吾他編著、中央法規出版
- ②「存在と時間」ハイデッガー著、細谷貞夫訳、ちくま学芸文庫
- ③「ソーシャルワーク実践への道」小関康之他編著、角川書店
- ④「社会福祉の歴史」ロバート・ブレムナー著、栗栖照雄他訳、相川書房
- ⑤「人生観の哲学」栗栖照雄他著、西日本法規出版(現・ふくろう出版)
- ⑥「ケースワークの原則」バイステック著、尾崎 新他訳、誠信書房

学生に対する評価

3回のレポートと科目修了試験の成績に基づいて総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅰ（行動療法論）	前田 直樹	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

近年、心理臨床の分野ではエビデンスベーストの行動療法、応用行動分析、認知行動療法が積極的に行われている。これらのアプローチを行うためには、その背景にある学習理論や行動理論を理解することが不可欠であり、同時に人間の心を科学的に理解するとはどういうことかについて改めて考えていく必要がある。これらのことを踏まえた上で、本科目では行動療法のアプローチが心理臨床の現場だけでなく、社会福祉の現場にどのように応用できるのかを考察する。

到達目標 (SBOs)

- 1) 臨床心理学の学派の違いについて理解する。
- 2) 学習理論の背景となるレスポナント条件づけ、オペラント条件づけ、モデリング学習について理解する。
- 3) 学習・行動理論から行動療法、行動分析への流れを説明できる。
- 4) 行動療法の主要な技法について理解する。
- 5) 行動理論や行動療法の技法を社会福祉の現場で応用することができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

心理療法の3大潮流である精神分析、来談者中心法、行動療法の理論と技法について解説し、行動療法の特徴について考察する。(4000字程度)

第2回レポート課題

日本の社会的問題である不登校・引きこもりについて行動論的に解説し、これらの支援に対する行動療法的アプローチについて考察する。(4000字程度)

第3回レポート課題

行動療法を用いて社会的弱者の自立支援を行う場合、どのようなアプローチを行う必要があるかを考察する。(4000字程度)

テキスト

宮下照子・免田賢：新行動療法入門，ナカニシヤ出版
 腹巻繁・島宗理：対人支援の行動分析学，ふくろう出版

参考書・参考資料等

杉山尚子・島宗理・佐藤方哉・リチャードマロット・マリアマロット：行動分析学入門，産業図書
 杉山尚子：行動分析学入門，集英社
 山内光哉・春木豊：グラフィック学習心理学
 斎藤環：社会的ひきこもり 終わらない思春期，PHP 新書
 Nigel Blagg: School Phobia and Its Treatment, Croom Helm
 河合伊六・桜井久仁子：不登校，ナカニシヤ出版
 飯倉康郎：精神科臨床医おける行動療法，岩崎学術出版

学生に対する評価

3回のレポートの内容で評価を行う。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論 I (人間動物関係論)	加藤 謙介	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

本科目では、『人間と動物の関係』の特徴・意義・課題について、特に福祉現場を中心に理解を深めることを目的としている。具体的には、関連文献の整理を通して、(1)『人間と動物の関係』に関する諸議論を理解する、(2)福祉現場における動物活用の意義と課題を理解する、ことを目指す。

到達目標 (SBOs)

- 『人間と動物の関係』全般に関する議論の特徴について、文献をもとに理解・説明できる。
- いわゆる「アニマル・セラピー」など、福祉現場における動物活用の特徴と課題について、文献をもとに理解・説明できる。
- 福祉現場における『人間と動物の関係』の意義と課題について、文献内容をもとに考察できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

『参考書・参考資料等』に挙げた文献の中から「1つ」を選び、3000字程度で内容を『要約』するとともに、『理解できたこと』を約300字、『理解できなかったこと』を約300字で整理する。

第2回レポート課題

自分が関心のある福祉分野の「書籍」を1冊、自由に選び、3000字程度で内容を『要約』するとともに、『理解できたこと』を約300字、『理解できなかったこと』を約300字で整理する。

第3回レポート課題

第1回・第2回のレポート課題の内容を踏まえ、「福祉現場における『人間と動物の関係』の意義と課題」について、3600字程度で論じる。

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

横山章光 (1996). アニマル・セラピーとは何か NHK 出版
 高柳友子・長谷川元・水越美奈・山崎恵子 (編) (2003). 医療と福祉のための動物介在療法 医歯薬出版株式会社
 桜井富士朗・長田久雄 (編著) (2003). 「人と動物の関係」の学び方：ヒューマン・アニマル・ボンド研究って何だろう インターズー
 奥野卓司・秋篠宮文仁 編 (2009). ヒトと動物の関係学：第1巻 動物観と表象 岩波書店
 秋篠宮文仁・林 良博 編 (2009). ヒトと動物の関係学：第2巻 家畜の文化 岩波書店
 森 裕司・奥野卓司 編 (2008). ヒトと動物の関係学：第3巻 ペットと社会 岩波書店
 池谷和信・林 良博 編 (2008). ヒトと動物の関係学：第4巻 野生と環境 岩波書店

学生に対する評価

3回のレポート課題、及び、最終試験(口頭試問)によって評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅱ（障害社会論）	上農 正剛	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（GIO）

医療・福祉・教育各領域において専門職として業務に従事する者には自らの関与の必要性を正当化する根拠がある。同時に、その各種支援を受ける病者、障害者、高齢者、児童等の側にも支援についての認識と要望がある。しかし、この支援を実施する専門職側と、その支援を受ける当事者側の認識や価値観との間に根本的な齟齬やズレや誤解が生じることがある。そして、その齟齬、ズレ、誤解に専門職側が気付かないまま、支援が実施されている状況もある。本科目の学習者は、課題テキストの考察を通し、この専門職側と当事者の間に生じている本質的な齟齬、ズレ、誤解を再認識し、そのことを通し、専門職としての自らの基本的価値観を反省的に再構築することを目標とする。また、修士論文執筆の事前訓練として、自らの思考を日本語で的確に表現する作文技術を習得することも副次的目標とする。

到達目標（SBOs）

- 1) 課題テキストの考察を通し、医療・福祉・教育各領域の専門家の価値観と、その支援を必要とする当事者の価値観との間には具体的にどのような齟齬、ズレ、誤解があるのかを理解する。
- 2) 齟齬、ズレ、誤解が生じるのは何故なのか。そのメカニズム（関係と構造）を理解する。
- 3) 齟齬、ズレ、誤解を是正するためには具体的にどのような改善的対応が必要かを理解する。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

課題テキスト『母よ！殺すな』を精読し、①内容を的確に要約する（1600字）。その後、②到達目標（SBOs）をしっかりと踏まえた上で、問題視点を自分で設定し、論理的構成に基づき考察を加える（1600字）。特に障害者が健全者に対して抱く不満、抵抗、怒りが何に拠るのかを冷静に把握すること。

第2回レポート課題

課題テキスト『自閉症だったわたしへ』を精読し、①内容を的確に要約する（1600字）。その後、②到達目標（SBOs）をしっかりと踏まえた上で、問題視点を自分で設定し、論理的構成に基づき考察を加える（1600字）。特に他者や外界とのコミュニケーションが困難な障害者は何に困惑し、どのような苦痛を感じるのか、それは何故なのかという問題を冷静に把握すること。人間同士が「理解」し合うとは、どのようなことなのかを根源的に再考せよ。

第3回レポート課題

課題テキスト『ボディ・サイレント』を精読し、①内容を的確に要約する（1600字）。その後、②到達目標（SBOs）をしっかりと踏まえた上で、問題視点を自分で設定し、論理的構成に基づき考察を加える（1600字）。特に健康な身体状況を失う場合、人間にはどのような変化が生じるか。その変化自体が更に変化していく時、その変化を生み出す要因は何なのかを冷静に把握すること。

テキスト

- ①横塚晃一『母よ！殺すな』生活書院
- ②ドナ・ウィリアムズ『自閉症だったわたしへ』新潮文庫
- ③ロバート・F・マーフィー『ボディ・サイレント』平凡社ライブラリー

参考書・参考資料等

- ①村瀬学『自閉症』ちくま新書
- ②渡辺一史『こんな夜更けにバナナかよ』文春文庫

学生に対する評価

3回のレポートと年度末の単位認定試験（口頭試問）の状況を総合的に判断し評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅲ（研究法・調査法）	三宅 邦建	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

院生諸君らが、(1) 統計の基礎 (2) 社会調査の具体的方法を体得する。受講生諸君が、これらの知識を各自の研究実践に活用できることが目的である。

到達目標 (SBOs)

統計学の基礎的知識を得る。
 研究方法の概要からどのような分析手続きを使うデータなのかを説明できる。
 質的研究と量的研究の方法論的相違を対比させ論じることができる。
 量的研究のサンプリング技法を説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

『統計学なんて楽勝だ』の各章を読み、別紙の『課題』を解答し提出すること。
 ※課題は、後日、教員より配布する。

第2回レポート課題

質的研究と量的研究についてその特徴を要約、対比させ論じなさい。

第3回レポート課題

サンプリングの各方法についてその特徴を要約しなさい。さらには、「サンプリング」が用いられた実証研究論文を一つ読み、サンプリング方法の妥当性を考察しなさい（考察した実証研究論文をかならず同封すること）

テキスト

統計学なんて楽勝だ 三宅（著）
 ソーシャルワークのための社会福祉調査法 平山・武田・呉・藤井・李（共著） ミネルヴァ書房
 社会福祉調査のすすめ——実践のための方法論 立石（著） ミネルヴァ書房
 社会調査へのアプローチ 大谷・木下・後藤・小松・永野（編著） ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

参考文献

初めて学ぶ人のための社会福祉調査法 根元博司・高倉節子・高橋幸三郎（編著） 中央法規
 社会福祉調査論 星野貞一郎・金子勇（編著） 中央法規
 研究法略ガイドブック 江川玫成 ナカニシヤ出版
 社会福祉の研究入門——計画立案から論文執筆まで 久田（編） 中央法規
 福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方 川村（著）

学生に対する評価

レポート課題と最終試験結果より上記 SBO に示した個別目標を達成しているかを評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅳ（高齢者福祉論）	山崎 きよ子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

学生は高齢者福祉を社会的特性、政策、ソーシャルワークの3面から総合的に理解する。

学生は、高齢者施策が明治期からどのように始まり 戦後 の生活保護法でどのように位置づけられたか、老人福祉法や各種社会保障分野における高齢者対策、そして介護保険法といった政策の内容と歴史的背景を理解した上で、高齢者の社会特性の一視点としての虐待を考察する。その後社会福祉援助技術の一つであるケアマネジメントについて検証し、わが国の介護保険に伴うケアマネジメントの展開について理解する。

到達目標（SBOs）

- ・学生は介護保険制度の理解はもちろんのこと、それまでの高齢者施策についても認識する。
- ・学生は高齢者虐待に関する国内外の文献を読み、多角的視点を持つ。
- ・学生はケアマネジメントについて介護保険に限定することなくソーシャルワークの一環としての捉え方をし、ソーシャルワークの近接領域についても理解する

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

公的介護保険制度の現状と今後の役割 平成 25 年 厚生労働省 老健局 総務課（インターネットにて公開）を読み、わが国の介護保険制度の概要をまとめ、あなたの意見を述べなさい。
（2400 字～3600 字）

第2回レポート課題

「世界の高齢者虐待防止プログラム」を読み、高齢者虐待における世界の取り組みについてまとめなさい。また、日本の虐待防止法と比較し論述しなさい。

第3回レポート課題

「ソーシャルワークの固有性を問う—その日本的展開をめざして—」の P. 147～P. 158 を読み、ソーシャルワークとケアマネジメントについてまとめなさい。加えてわが国の介護保険法に導入し展開しているケアマネジメントの定義や考え方について比較し、わが国でケアマネジメントはどのように解釈され、どのような方向に展開していくのかを論述しなさい。

テキスト

- ・公的介護保険制度の現状と今後の役割 平成 25 年 厚生労働省 老健局 総務課（インターネットにて公開）
- ・世界の高齢者虐待防止プログラム ブラウネル他著 明石書店
- ・ソーシャルワークの固有性を問う—その日本的展開をめざして— 西尾祐吾他著 晃洋書

参考書・参考資料等

「介護予防実践論～キリスト教ミード社会館の足跡から～」大阪地域福祉サービス研究所
中央法規 2006 年
「高齢者虐待に挑む～発見、介入、予防の視点」高齢者虐待防止研究会 中央法規出版 2006 年
「福祉社会の歴史 伝統と変容」佐口和郎、中川清 ミネルヴァ書房 2005 年
「ケアマネジメントの評価のあり方に関する調査研究報告書」日本ケアマネジメント学会 2003 年
「家庭内で起こる暴力とファミリーサポート」山西裕美編著 中央法規 2005 年
「各国の社会保障」足立正樹 法律文化社 2003 年

学生に対する評価

3 回のレポート評価と口頭試問とする。口頭試問は 3 回のレポートのみ持ち込み可。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅴ（東洋介護福祉論）	渡邊 一平	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

我が国の疾病構造は、慢性疾患、心因性疾患、免疫遺伝学的疾患等にみられるように、複雑な因子が関与する疾病が急増している。このような疾病構造の中では、原因を特定し、排除するという既存の価値観とは違う角度から、健康や疾病を捉える必要があり、キュア (cure) よりもケア (care) が重要視される。このような背景の下、東洋医学を学習し理解することで、東洋思想をベースとした「アメニティ・ケア (amenity care)」を修得し、構築する。

到達目標 (SBOs)

- 1) 西洋医学、東洋医学の世界観、価値観、歴史的変遷、役割について説明できる。
- 2) 西洋医学と東洋医学の比較から、両者の違いについて考察できる。
- 3) 東洋医学・東洋哲学思想について認識し、整体概念（東洋医学の身体観、健康観、自然観など）について説明できる。
- 4) 東洋医学思想を基盤とした心身相互連関について説明でき、快適介護福祉について考察できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

西洋医学と東洋医学の違いについて、各々の価値観、歴史的変遷、役割の観点から概説する。

第2回レポート課題

東洋医学の基本概念である「気」および「陰陽」について学習し、東洋医学の身体観・健康観を考察する。

第3回レポート課題

東洋医学思想を基盤とした「こころと身体は不可分 (心身一如) であると意識する」ことから「快適介護福祉 (アメニティ・ケア ; amenity care)」について考察する。

テキスト

- 1) 介護福祉教育の方法と実践 新しいケアワーカー像を求めて：栗栖照雄他.角川書店.9784046515988.2,000 円
- 2) 養生の実技 一つよいカラダでなく一：五木寛. 角川書店. 9784047041639 . 686
- 3) カラー図解 東洋医学 基本としくみ：仙頭正四郎. 西東社. 9784791617968. 1,500 円

参考書・参考資料等

- 1) 東洋療法学校協会編：東洋医学概論.医道の日本社
- 2) 石田秀美：気流れる身体.平河出版
- 3) 仙頭正四郎：標準東洋医学.金原出版

学生に対する評価

提出された3回のレポート内容、指摘箇所への回答、科目終了試験などにより総合的に判断する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論VI (地域福祉論)	平川 忠敏	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

個人の能力の改善や向上といった視点だけでなく、社会を個人に適応させ、個人と社会の両者の関係性の改善を図る、という視点に立つコミュニティアプローチを展開し、「地域で共に暮らす」ための理論を学び、実践を展開する。

到達目標 (SBOs)

個人の弱いところを見つけてそこを援助するだけでなく、地域社会福祉論であるから、地域環境を改善して、個人が住みやすいようにしていく。そのために、個人も地域も診断して、両者に治療的福祉的なアプローチを展開して、たとえばハンディキャップがあっても不自由しない、というような方法論を展開できるようになる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

セルフヘルプグループ、エンパワーメント、レジリエンスの概念を説明し、社会的弱者は、決して援助を必要とする存在ではなくてもともと多くの力を持っている主体的な存在であることを、例を挙げて説明しなさい。

第2回レポート課題

文脈内人間、コミュニティ感覚、コミュニティアプローチの概念を説明しなさい。

第3回レポート課題

コミュニティアプローチの具体的な事例を二つ、雑誌や本から選び、報告・解説しなさい。また、二つのうち一つは英文にすること。

テキスト

植村勝彦編著「コミュニティ心理学入門」ナカニシヤ出版
 植村勝彦他編著「よく分かるコミュニティ心理学」ミネルヴァ書房
 日本コミュニティ心理学会編「コミュニティ心理学ハンドブック」東京大学出版

参考書・参考資料等

山本和郎 監訳 コミュニティ心理学－理論と実践－1997 ミネルヴァ書房
 (Orford, J. Community Psychology : Theory and Practice John Wiley & Sons. 1992)
 山本和郎 著 コミュニティ心理学－地域臨床の理論と実践－東京大学出版会 1986
 山本和郎 他編著 臨床・コミュニティ心理学 ——臨床心理学的地域援助の基礎知識——ミネルヴァ書房 2000
 箕口雅博 臨床心理地域援助特論 放送大学教育振興会 2007
 笹尾敏明 訳 コミュニティ心理学－個人とコミュニティを結ぶ実践人間科学－金子書房 2007
 (Dalton, J. H., Elias, M. J. & Wandersman, A. Community Psychology: Linking Individuals and Communities. Stamford, CT: Wadsworth)

学生に対する評価

レポート3回合格し、科目修了試験において評価。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅶ（身体健康福祉論）	小川 芳徳	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

高齢者の増加とともに介護の問題が社会的な問題として指摘されています。そのため2000年に介護保険制度が施行され幾度となく改正を重ねています。福祉社会の実現のためには介護の予防という観点が重要となってきます。介護の予防には身体活動の維持・向上は欠かせません。高齢者が「体を動かす能力」を維持していくためには、日常的に身体活動ができる施設、設備、さらには運動を指導できる人材が必要となります。指導にあたってはからだを動かす仕組みやその効用を理解すること、さらには、それを福祉の施策に反映させることが大切です。よって、この科目では身体活動の加齢による変化、その仕組み、その効用、そして指導にあたってのポイントを理解することを目的にします。

到達目標 (SBOs)

- ① 年齢(加齢)に伴う身体の生理的变化を理解する。
- ② 身体活動のしくみを理解し、説明できる。
- ③ 身体活動の効用を理解し、説明できる。
- ④ 運動を指導する際に注意すべき事項を理解し、説明できる。
- ⑤ 高齢者に対して運動を提示し、その意味を説明することができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

身体の生理学的な経年変化について述べてください。(①②③⑤)

第2回レポート課題

身体活動が生体に及ぼす影響について説明してください。(②③④⑤)

第3回レポート課題

高齢者の身体的特性と身体活動との関わり方を、休養、栄養を含めて考察してください。(①②③④⑤)

テキスト

参考書・参考資料等

- ① 若い時に知っておきたい運動・健康とからだの秘密 (出版社：近代科学社)
- ② シニアのためのスポーツ医学 (出版社：NAP)
- ③ 高齢者の生活機能増進法 (出版社：NAP)

学生に対する評価

3回のレポートを提出・合格し、科目修了試験において総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅷ（施設経営論）	鬼崎 信好	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

(研究テーマ)

福祉サービスの提供組織が多様化してきている今日、それらの存在意義（独自性）を再確認する必要性が生じてきている。特に民間施設を運営する組織としての社会福祉法人が今後必要であるか否かなどについて、明確な整理も必要となってきた。また、社会福祉法人以外の法人（医療法人、農協、生協、営利法人、NPO法人等）が在宅サービスを中心に参入してきているので、これらの法人を巡る論点も整理をする必要がある。

(研究の流れ)

- ①社会福祉施設の把握、②社会福祉法人制度の意義、③社会福祉法人と社会福祉施設の関係、④社会福祉施設を巡る課題、⑤社会福祉法人以外の法人を巡る課題

到達目標 (SBOs)

(研究のポイント)

- ①社会福祉法人の枠組みなどについて全体的理解ができる。
 ②社会福祉法人を巡る論点の整理を各種の文献を通して整理できる。
 ③社会福祉法人以外の法人の相違点を理解し、法人ごとの可能性と限界を説明できる。

注1：課題のレポート作成は、単位取得のために記すのではなく、構築力や表現力を養うための勉強の機会と考えて取り組むことが重要である。

注2：レポート作成の積み重ねが、次のステップ（論文執筆）につながる。

注3：受講生から提出されたレポートを添削することによって、次のステップに進むことができるように努めたい。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

社会福祉施設の動向と課題を整理しなさい。

注：障害者総合支援法施行以降、障害者関係施設の枠組みが変わっていることを注意すること。

第2回レポート課題

社会福祉法人制度を巡る課題を整理しなさい。

注：社会福祉法改正に基づき、社会福祉法人の組織体制等が大きく変わっていることを踏まえること。

第3回レポート課題

福祉サービス提供組織の多様化を巡る課題を整理しなさい。

テキスト

①武居 敏編『社会福祉施設経営管理論 2017』全国社会福祉協議会 2017年

②社会福祉学双書編集委員会編『学びを深める福祉キーワード集』全国社会福祉協議会

参考書・参考資料等

①社会福祉法人経営研究会『社会福祉法人経営の現状と課題』全国社会福祉協議会、2006年

②社会福祉士養成講座編集委員会『福祉サービスの組織と経営第3版』中央法規出版、2012年

③鬼崎信好『高齢者介護サービス論』中央法規出版、2014年

④鬼崎信好編『コメディカルのための社会福祉概論(第2版)』講談社、2014年

⑤鬼崎信好編『四訂 社会福祉の理論と実際』中央法規出版、2007年

⑥鬼崎信好ほか編『世界の介護事情』中央法規出版、2002年

⑥鬼崎信好ほか編『介護保険キーワード事典』中央法規出版、2001年

学生に対する評価

レポート3回合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅸ（国際保健福祉論）	秋葉 敏夫	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

社会福祉と健康は密接な関係がある。本論担当者は15年にわたって途上国の保健医療分野における援助活動に従事してきた。その経験を踏まえ、本論受講者にはなぜ途上国の多くの子供が保健上の問題から無為に命を落としていくのかについて、社会的、経済的、政治的な背景から理解し、その対策についても考察してもらう。

本論受講者は指定されたテキストを読み、設定された課題について論述することによって、福祉と健康の問題をグローバルな観点から考えられようになる。

到達目標（SBOs）

テキスト「いのち・開発・NGO」を読み、レポート課題を提出することによって；

- プライマリーヘルスケア（PHC）の概念を把握し、その対抗勢力について理解できる。
- 下痢で途上国の多くの子供が命を落とすが、その背景が見えてくる。
- 人々の健康を決定するものがなになのかについて理解を深まる。
- 貧困層のエンパワーメントについて考察することが出来る。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

序文、第一部、第二部を読み、プライマリーヘルスケアの目指すところを述べなさい。また、下痢を社会的な観点から分析し、その治療法であるORTの問題に言及しなさい。

第2回レポート課題

三部を読み、人々の健康を決定する原因について、あなたの考えを述べなさい。

第3回レポート課題

第四部を読み、貧しい人々をエンパワーする手段について考えることを記述しなさい。

テキスト

「いのち・開発・NGO」 デヴィット ワーナー著（新評論）

参考書・参考資料等

「国際保健医療学」（国際保健医療学会編）

「実践社会調査」 玉野和志著（世界思想社）

学生に対する評価

提出されるレポートの内容での評価が80%、口頭試問20%の割合で評価する。

*レポートを事務局に送付する前に、必ず指導教官に送り、指導を受けること。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅸ（生活支援技術論）	清水 径子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

本科目では、生活支援技術とは、主に施設等での高齢者や障害者への介護技術を指している。近年、施設や病院において利用者への虐待、職員の人手不足等が問題視されている。生活支援の場で起こる諸問題を認識し、利用者の生活の視点から支援方法を考察する。さらに、高齢者や障害者のもつ様々な特性を理解し、ICF（国際生活機能分類）の視点に基づき、利用者のニーズに合った支援を考えることにより、根拠のある介護について理解する。

到達目標（SBOs）

- 1) 生活支援の場での介護者と利用者間で起こる諸問題を認識し、考察できる。
- 2) ICFの視点に基づき、生活支援を必要としている高齢者や障害者の特徴を理解できる。
- 3) 特徴を理解した上で、留意点をまとめることができる。
- 4) 利用者のよりよい生活を考えた支援方法を提案できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

テキスト①を読み、利用者の生活を支援する際の諸問題を挙げ、その原因を考察する。

第2回レポート課題

テキスト②③を読み、老化、疾患、障害などにより生活支援を必要としている利用者の特徴と留意点についてまとめる。

第3回レポート課題

テキスト①～③を参考に、ひとりの利用者の事例（後日配布）から、生活支援技術を考える。食事介助、排泄介助、入浴介助、移動介助等の生活支援場面を一つ選び、利用者の生活の質向上に向けてどのように支援をすべきか、提案する。なぜその支援を提供すべきか、根拠を説明すること。

テキスト

- ①介護の専門性とは何か 三好春樹 雲母書房
- ②新版 介護基礎学－高齢者自立支援の理論と実践 竹内孝仁 医歯薬出版
- ③「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用－目標指向的介護に立って 大川弥生 中央法規

参考書・参考資料等

- ・介護 現場からの検証 結城康博 岩波書店
- ・医療は「生活」に出会えるか 竹内孝仁 医歯薬出版
- ・目標指向的介護の理論と実際－本当のリハビリテーションとともに築く介護－ 大川弥生 中央法規
- ・新介護福祉士養成講座 6～8 生活支援技術Ⅰ～Ⅲ 中央法規
- ・介護福祉学 介護福祉学研究会監修 中央法規

学生に対する評価

提出された3回のレポート内容、科目修了試験により総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論X（スクールソーシャルワーク論）	横山 裕	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

学習者が、社会福祉援助実践者として学校領域におけるソーシャルワーク活動であるスクールソーシャルワークそのものを理解する。具体的には、学習者がスクールソーシャルワークの歴史を理解し、現状でどのような問題がなぜ発生し、それに対してどのような取り組みがなされているのか理解する。

到達目標 (SBOs)

学習者が、スクールソーシャルワークの淵源を理解できるようになる。また学校を活動起点としたソーシャルワークがどのような福祉的問題を対象とし、どのように解決に向けた展開がなされているのかを認識した上で、今日的課題に対応したスクールソーシャルワーク活動に取り組めるようになる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

スクールソーシャルワークの日本及び世界での淵源について述べて下さい。

第2回レポート課題

スクールソーシャルワークが対象とする福祉的課題とその解決に向けた展開について説明してください。

第3回レポート課題

「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省）のデータを参考にしながら我が国におけるスクールソーシャルワークの今日的課題について考察して下さい。

テキスト

スクールソーシャルワーク論 日本スクールソーシャルワーク協会編 学苑社 9784761407100
 学校ソーシャルワーク演習 門田光司 他 ミネルヴァ書房 9784623056750
 スクールソーシャルワーカー養成テキスト 日本学校ソーシャルワーク学会編中央法規 9784805830758

参考書・参考資料等

「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省ホームページ参照）
 「スクールソーシャルワーカー実践活動事例集」（文部科学省ホームページ参照）

学生に対する評価

レポート3回合格し、科目修了試験において評価。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論XI (コミュニティ・ソーシャルワーク論)	川崎 順子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

本科目では、地域を基盤としたソーシャルワークに求められる視座を理解し、特に地域福祉推進にかかわるソーシャルワークの課題を検討していく。そのために、コミュニティケア、コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワーク等の理論と実践の枠組みを再整理し、コミュニティソーシャルワークの展開に向けた課題やあり方について理解する。

到達目標 (SBOs)

- ①日本における社会福祉の動向とソーシャルワーク理論と実践の現状について理解できる。
- ②地域を基盤としたソーシャルワークが求められる背景を明確にする。
- ③コミュニティソーシャルワークの理論と実践に向けた考察ができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テキスト「コミュニティケアの社会福祉学」を熟読し、①イギリスにおけるコミュニティケア政策の展開過程を要約し、日本における社会福祉の進展に影響を及ぼした内容を考察する。②バークレイ報告にみるコミュニティソーシャルワークの概念を整理し、論述する。(6月)

第2回レポート課題

テキスト「地域福祉援助をつかむ」を熟読し、①地域を基盤としたソーシャルワーク実践におけるコミュニティワークとコミュニティソーシャルワークの共通点、相違点を考察する。②コミュニティソーシャルワークを実践するための重要な視点や機能を論述する。(9月)

第3回レポート課題

テキスト「コミュニティソーシャルワークの理論と実践」を熟読し、①コミュニティソーシャルワークの理論化の動向と展開方法を要約する。②地域福祉推進とコミュニティソーシャルワークとの関連性をまとめ、今後の課題を論述する。(11月)

テキスト

- ①小田兼三 (2002) 「コミュニティケアの社会福祉学-イギリスと日本の地域福祉-」 勁草書房
- ②岩間伸之・原田正樹 (2016) 「地域福祉援助をつかむ」 有斐閣
- ③中島修・菱沼幹男 (2016) 「コミュニティソーシャルワークの理論と実践」 中央法規

参考書・参考資料等

- ①小田兼三 (1997) 「現代イギリス社会福祉研究」 川島書店
 - ②平塚良子・小山隆・加藤博史 (2016) 「ソーシャルワークの理論と実践-その循環的発展を目指して-」 中央法規
 - ③原田正樹 (2014) 「地域福祉の基盤づくり」 中央法規
 - ④大橋謙策・田中英樹・宮城孝 (2008) 「コミュニティソーシャルワークの理論」 日本地域福祉研究所
- *他ソーシャルワーク実践、地域福祉に関わる文献は多数あるため、テーマに応じて活用すること

学生に対する評価

3回のレポート成績 60%と科目修了試験成績 40%で判断し、総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	秋葉 敏夫	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

現代社会の福祉にかかわる諸問題を探求し、解決の糸口を見出していくための基本的な手法が修得することが出来る。それをもとにして論文が作成できる。

到達目標 (SBOs)

- 1) 研究テーマを設定することが出来る。
- 2) 論文を書くために必要な文献を探することができる。
- 3) 論文の構成が理解できる。
- 4) 研究計画案を立てることができる。
- 5) データを得るための調査方法を理解する。
- 6) 修士論文が書ける

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

研究テーマの設定の仕方、文献の集め方、関連情報の収集の仕方、調査に必要な方法論、研究計画の立て方について学ぶ。

2年次

1年次の成果を踏まえて研究を進め、修士論文の作成に当たる。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

学生に対する評価

提出物のクオリティー、論文の構成、内容、方法論の適切さなどで評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	上農 正剛	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

本研究の目標は自ら設定した研究テーマに従い、研究作業を計画的に遂行し、その成果を最終的に修士論文として執筆することにある。そのためには到達目標で示すような具体的な課題を段階的に着実に達成していく必要がある。

到達目標 (SBOs)

- 1) 適切な研究テーマを設定する能力を習得する。
- 2) 適切な研究計画を立案する能力を習得する。
- 3) リサーチ（調査・情報収集、等）を適切に実施する能力を習得する。
- 4) 論理的に適切な論文構成を立案する能力を習得する。
- 5) 論理的で読みやすい日本語で論文を書く能力を習得する。

授業計画（論文作成の計画）

1年次

修士論文執筆のための基本的技術（研究テーマ設定、目次構成、文献・資料の収集法、調査デザイン、執筆計画、等）及び、必要な場合は付随的な統計処理等の技術も含め習得しつつ、準備作業を具体的に実施する。

2年次

1年次の準備作業を踏まえ、論文を段階的に執筆し、完成させる。大部の論文は一気呵成には書けないので、指導者からの進捗状況の確認を逐次受けながら、執筆が停滞しないよう作業を進める。学習者が遠隔地在住の場合は、指導者との双方の意思伝達、質疑応答のやり取りはEメール等の通信手段を活用し、きめ細かに実施する。

テキスト

特に指定しない。学習者が選定するテーマに応じ、必読文献を紹介する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。学習者が選定するテーマに応じ、関連参考文献・資料、情報等を紹介する。

学生に対する評価

研究に取り組む態度と論文の執筆状況、完成論文の内容を総合的に判断し、評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	小川 芳徳	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

福祉社会の実現に向けた研究テーマを設定し、テーマに沿った調査・試験等を行うことにより新たな知見を提示し、これを論理的手順により解釈することを目指します。さらに、それらの成績を実践へと展開することを目標にいたします。論文の執筆にあたっては、研究の背景、課題設定、調査法、それらの結果、そして考察等の一連の過程を正しく記載します。

到達目標 (SBOs)

- ① 問題となる背景を理解し、説明できる。
- ② 研究テーマを設定できる。
- ③ 研究テーマを解決するための方法を理解し、説明できる。
- ④ 得られた結果をまとめ、整理することができる。
- ⑤ 結果を的確に表現することができる。
- ⑥ 結果について論理的に考察することができる。
- ⑦ ①から⑥について、正確に記述できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

研究テーマに即した研究背景を確認し、研究課題の目的や方法などの基本的構成について、また、その妥当性について取り組む。(①～③)

- 1 研究の背景となる分野について先行研究を調べ、整理する。
- 2 1の作業から課題を導き出す。
- 3 課題を解決するための方法を決める。

2年次

各自の研究テーマに沿ったデータ収集と解析、そして論文の作成を行う。(④⑤⑥⑦)

- 1 データの収集
- 2 データの解析・考察
- 3 論文の作成

テキスト

参考書・参考資料等

研究の進捗状況により提示する。

学生に対する評価

到達目標の達成度を総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	加藤 謙介	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

「人と動物の関係」に関する諸領域をフィールドとし、主としてグループ・ダイナミクス (社会心理学) の観点から研究を行い、修士論文を作成してその成果を報告する。研究を行うに当たっては、国内外の論文も含めたレビュー研究を行う。

到達目標 (SBOs)

- 1) 「人と動物の関係」の諸領域並びに研究について理解する。
- 2) 心理学研究法、及び心理学論文の書き方について理解する。
- 3) 国内外の論文を参考文献として引用することができる。
- 4) 「人と動物の関係」に関連する研究を行い論文を作成する
- 5) 自分の研究に関する適切なプレゼンテーションができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- 1) 「人と動物の関係」に関する研究テーマを設定し、国内外の先行研究を考察する。
- 2) 先行研究に関するレビュー論文をまとめる。
- 3) 研究計画を設定する。

2年次

- 1) 研究計画に沿って実験、調査等でデータの収集を行う。
- 2) 修士論文を作成する。
- 3) 研究結果のプレゼンテーションを行う。

テキスト

研究テーマに即して、指導を通して紹介する。

参考書・参考資料等

杉万俊夫 (2013). グループ・ダイナミクス入門：組織と地域を変える実践学 世界思想社
 谷田 創・木場有紀 (2014). 保育者と教師のための動物介在教育入門 岩波書店
 桜井富士朗・長田久雄 (2003). 「人と動物の関係」の学び方：ヒューマン・アニマル・ボンド研究って何だろう インターズー

学生に対する評価

研究論文の内容で評価を行う。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	川崎 順子	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉関連領域への問題認識を明確にし、先行研究・文献探索を通して、討議する。そこから、研究テーマの設定を検討し、研究の手順や適切な方法を用いて研究することができることを目指す。その研究成果を修士論文として論述し、完成させることを目標とする。

到達目標 (SBOs)

- ① 問題認識を明確にし、その背景について説明することができる。
- ② 研究テーマとするポイントを整理し、研究計画書を作成することができる。
- ③ 研究目的に則した研究方法を理解し、研究を計画的に進めることができる。
- ④ 得られた結果をまとめ、考察することができる。
- ⑤ 結果について論述し、論理的に説明することができる。
- ⑥ 研究成果として論文にまとめることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

研究テーマに則した研究背景や目的を明確にするために、先行研究や文献探索を行い、研究到達状況を理解したうえで、研究テーマの意義を見出し、研究計画書を作成する。そのために、研究計画書の立て方や具体的な研究方法の手順などを理解し、研究に着手する。(①～③)

2年次

1年次の成果を踏まえ、研究計画書に基づいた研究を着実に進める。研究で得られたデータの分析や新たな知見を考察し、修士論文として完成させる。研究成果のまとめとして、プレゼンテーションを行う。(③～⑥)

テキスト

特に指定しない。必要に応じて関連する先行研究や図書を紹介する。

参考書・参考資料等

研究の進捗状況により提示する。

学生に対する評価

研究への熱意、取り組み姿勢、発表・修士論文の内容等を考慮し、総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	栗栖 照雄	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

院生各自の問題意識と研究テーマに沿った指導を行うが、原則的な枠組みとして、社会福祉学特論（福祉哲学）の受講内容を習得することを前提とした研究と論文作成となる。したがって、以下の枠組みの範囲内で独自の問題意識の醸成と研究テーマの選択が行われることが求められる。

到達目標 (SBOs)

- 1) 歴史上において生成した世界の社会福祉の思想・理論・概念を探究し、その用語を修得し、定義することができる。
- 2) QOL やノーマライゼーション理論の基礎になっている人間存在理解を哲学的に解釈し説明できる。
- 3) 英語の“care”の意味の全体を習得し、その意味の広がり与人間の存在（関係）様態の広がりを重ね合わせて理解し、説明できる。
- 4) 「ケアする存在としての人間」の立場から、人間関係において本質的に福祉思想が発生してくる必然性を理解し、説明できる。

授業計画（論文作成の計画）

1年次

院生個々の研究テーマに沿って、随時、郵送、Eメールを活用しながら課題を課す。スクーリングにおいては研究の内容と方法に関して全体的な説明と指導がなされるが、個々の研究の進捗は基本的に各院生が独自に行う文献講読に負っている。したがって院生は、研究内容の展開だけでなく、研究の進捗状況に応じて新しい文献の検索にも注意を払うことが望ましい。

2年次

- 1) 一年次に修得した内容を通して、院生の関与する専門分野の問題を掘り下げて行く。
- 2) 「学習のしおり」で指示された様式に沿って、修士論文を作成する。

テキスト

特に指定を行わないが、社会福祉学特論（福祉哲学）で用いるものや、院生独自の研究において必要とされ担当教員がそのつど適切であると認めるもの、および担当教員が作成した資料などがテキストとされる。

参考書・参考資料等

随時紹介する。

学生に対する評価

特別研究授業における面談内容、発表内容と態度、修士論文の成績に基づいて、総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	正野 知基	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

QOL (生活の質) を向上させるための手段としてのレクリエーション, 身体活動・健康運動, スポーツの福祉分野における有用性について考察していくことを主たる研究領域とする。

1年次は, まず問題 (研究課題) の具体化と解決へ向けての研究手順・方法を学び, 理解する。次に研究目的を具体的・現実的なものとし, 修士論文としての意義とオリジナリティを確認 (先行研究を整理) する。そして研究の問題点及び限界を確認して研究計画を立案する。2年次は, 研究計画に沿って研究を実施し, 修士論文を作成する。これら一連の過程を通して, 修士論文作成のために必要な知識・技術を修得する。

到達目標 (SBOs)

- ・各自の持つ問題 (研究課題) の具体化と解決へ向けての研究手順・方法を理解し, 実行できる。
- ・研究目的を具体的・現実的なものとし, 修士論文としての意義とオリジナリティの確認ができる。
- ・研究の問題点及び限界を確認し, 研究計画が立案できる。
- ・立案した研究計画に沿って研究が実施でき, 修士論文としてまとめることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- ・各自の持つ問題 (研究課題) の具体化へ向けた作業を行う。
- ・具体化した研究課題の解決へ向けての研究手順・方法を学び, 理解する。
- ・研究目的を具体的・現実的なものとし, 修士論文としての意義とオリジナリティを確認するために先行研究のレビューを行う。
- ・研究の問題点及び限界を確認し, 研究計画を立案する。

2年次

- ・立案した研究計画に沿って研究を実施する。
- ・実施した研究の結果に対して考察を加え, 修士論文としてまとめる。

テキスト

特に指定はしないが, 個々の研究テーマに関連した文献を必要に応じて紹介する。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時紹介するが, 院生自らも積極的に文献検索・収集を行うこと。

学生に対する評価

研究課題の具体化ができているか, 解決へ向けての研究手順・方法を理解して実行できているか, 研究目的を具体的・現実的なものにできているか, 修士論文としての意義とオリジナリティの確認ができているか, 研究の問題点及び限界を確認して研究計画が立案できているか, 実施した研究の結果を修士論文としてまとめることができたかを, スクーリングへの参加の状況・取り組む姿勢も含めて総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	前田 直樹	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

科学的な心理学である行動理論、行動療法、行動分析に関する研究を行い、修士論文を作成してその成果を報告する。研究を行うに当たっては、国内の論文だけでなく、国外の論文も含めたレビュー研究を行う。

到達目標 (SBOs)

- 1) 行動理論、行動分析、行動療法とその研究について理解する。
- 2) 心理学研究法と心理学論文の書き方について理解する。
- 3) 国内の論文だけでなく海外の論文を参考文献として引用することができる。
- 4) 行動理論に関連する研究を行い論文を作成する
- 5) 自分の研究に関する適切なプレゼンテーションができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- 1) 行動理論、行動療法、行動分析に関する研究テーマを設定し、国内外の先行研究を考察する。
- 2) 先行研究に関するレビュー論文をまとめる。
- 3) 研究計画を設定する。

2年次

- 1) 研究計画に沿って実験、調査等でデータの収集を行う。
- 2) 修士論文を作成する。
- 3) 研究結果のプレゼンテーションを行う。

テキスト

宮下照子・免田賢：新行動療法入門，ナカニシヤ出版
 腹巻繁・島宗理：対人支援の行動分析学，ふくろう出版

参考書・参考資料等

Nigel Blagg: School Phobia and Its Treatment, Croom Helm
 Richard D. Parsons: Thinking and Acting Like a Behavioral School Counselor, Corwin
 飯倉康郎：精神科臨床医おける行動療法，岩崎学術出版

学生に対する評価

研究論文の内容で評価を行う。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	山崎 きよ子	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

学習者は、学術論文作成ができる。
 学習者は、研究する内容について先行研究文献を読みこなし、学習者が研究しようとする事について、新しい知見があるかを検索することができる
 学習者は、研究方法を修得することができる。

到達目標 (SBOs)

M1年生では研究テーマの設定と先行研究に関する専門書の読み込みと研究計画をたてることができる。
 M2年生では研究計画に基づいて調査、分析、論文作成を行うことができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

学生は論文の書き方を理解し、研究情報の入手方法とその利用ができる。
 学生は調査に関する一連の作業と分析ができる。
 学生は論文執筆に関する課題を設定することができる
 スターリング時にはパワーポイントにて、研究の進捗状況を報告することができる。

2年次

学生は、論文執筆のための論文構成ができる。
 学生は、研究目的、研究方法、研究日程、倫理的配慮について記述することができる。
 学生は、学術研究論文を作成し、その概要についてパワーポイントで報告することができる。

テキスト

学生それぞれが各自の関心課題を持ってテキストを選定する。

参考書・参考資料等

学生それぞれが各自の関心課題を持ってテキストを選定する。

学生に対する評価

論文の成果とする。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	渡邊 一平	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

関心領域における過去の研究を理解することにより自己の問題意識を明確した上で、研究という手法を用いて、自己の疑問を解決する方法論を実践できることが目標である。

そのために、社会福祉学特論Ⅴ（東洋介護福祉論）で学習した内容を基に、各自が設定した研究テーマについて、生理学的手法あるいは生理心理学的手法を用いた研究が実施できる。

到達目標 (SBOs)

- 1) 研究論文の概念および基本的な作成方法について学習し、理解できる。
- 2) インターネット、図書館などを使用した文献検索など、研究に必要な情報収集ができる。
- 3) 集めた関連文献より研究目的の設置および目的を達成するために最適な研究方法を選択・実行できる。
- 4) データの処理方法について学習し、実行できる。
- 5) 上記の学習内容を基盤として、修士論文が作成できる。
- 6) プレゼンテーション手法について学習し、実際にスライドを使用したプレゼンテーションができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- 1) テーマに関連する文献検索：各自の関心事項をキーワードで提示する。それらのキーワードに関連する先行研究について文献を収集し、その領域において行われた研究内容を把握することにより、現在明らかにされていない点を整理し、各自が行う研究テーマを明確にする。
- 2) 各自が行う研究に必要な研究手法についての知識を習得する。

2年次

- 1) 予備研究を行い、各自が計画した方法の妥当性を検討する。
- 2) 1～3によって得られた知識を基に、各自の研究を実施し、修士論文を作成する。

テキスト

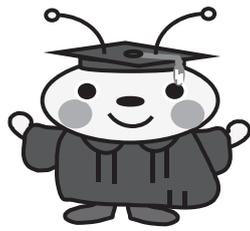
各院生の研究テーマに従って随時紹介する。

参考書・参考資料等

各院生の研究テーマに従って随時紹介する。

学生に対する評価

スクーリングの参加、提出物の内容等を考慮し、総合的に評価する。



Together